

平成22年度特定非営利活動法人

霞ヶ浦アカデミー総会議案書

日時：平成22年5月16日（日）15：30開会

会場：霞ヶ浦ふれあいランド水の科学館多目的ホール

開 会

理事長挨拶

定数確認

議長選任

議事録署名人選任

議 事

1 平成21年度事業報告

2 平成21年度会計報告

3 平成21年度監査報告

質疑および承認

4 平成22年度事業計画（案）

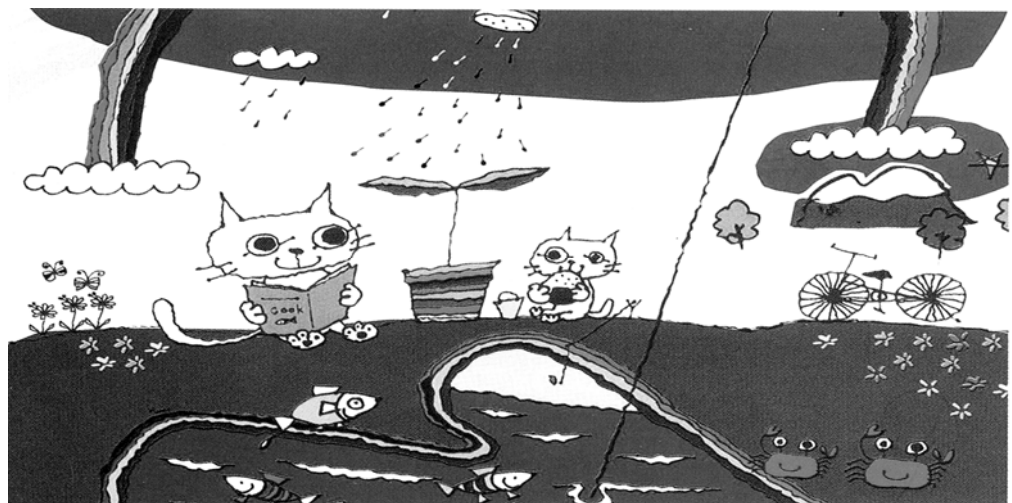
5 平成22年度収支予算（案）

質疑および承認

6 役員改選

議長解任

閉 会



平成21年度事業報告

活動の概況

平成21年9月に自民党政権に代わって民主党政権が誕生し、公共事業の見直し等の新しい方針が打ち出され、霞ヶ浦導水事業が一時凍結の対象となった。このことは、霞ヶ浦の環境問題に少なからざる影響を及ぼした。このことを受けて、茨城県知事は、「霞ヶ浦浄化代替案があれば、霞ヶ浦導水事業からの撤退もあり得る」旨の発言を行い、地域社会に大きな波紋を投げかけた。いくつかの市民団体は、霞ヶ浦環境問題の解決に向けて国・県に要望を行うなど霞ヶ浦導水事業の是非にとどまらず、霞ヶ浦環境問題全体に大きな動きが生じた。

霞ヶ浦では、水質は依然としてCODが低減することなく基準値を上回ったままであったが、例年になくワカサギが豊漁で、漁業関係者は勿論、釣人や一般の人々の間でも大きな話題となった。

そうした動きの中で、わたしたちは、平成12年から5年間にわたって実施した「霞ヶ浦水産フェスタ」を「Kフェスタ」と改称しプレ・フェスタとして復活させ、霞ヶ浦水質浄化について技術・アイデアを募集し、展示広報し、講演会を開催するなどの広報活動を行った。ワカサギ豊漁の原因についても、いち早く調査を実施し広報する等積極的な活動を展開した。

調査研究については、魚類調査を継続実施し水産資源、特にワカサギの資源動向を明らかにし資源動向を広報した。

社会の調査研究については、霞ヶ浦の中世について調査を行い調査結果を、会報海夫通信で「海夫たちの霞ヶ浦」として連載を開始した。

わたしたちの基本的事業の一つである環境教育については、「霞ヶ浦生き物アカデミー」と「霞ヶ浦定期連続講座」を毎月一回開催し定着させた。

それぞれの事業の詳細は、以下のとおりである。

(1) 生き物アカデミー

- 4月19日 フナは、無事に産卵したかしら（フナ産卵調査）
- 5月17日 フナの赤ちゃん調査（フナ仔魚調査）
- 5月31日 生き物アカデミー公開発表会
- 6月21日 アメリカナマズは、増えたか（外来魚と在来種の組成調査）
- 7月19日 小川でフナ稚魚を探す（玉造古川でのフナ稚魚調査）
- 8月23日 外来魚調査、湖沼観測および地下水調査
- 8月27日 霞ヶ浦のプランクトンを調べる
- 9月20日 釣でフナを調べる
- 10月18日 湖心を観測する
- 11月22日 11月 堤脚水路の中の魚をしらべる
- 12月20日 高浜入りで漁業をする幡谷善次郎さんのお話を聞く

- 1月17日 湖岸の野鳥を観察する
- 2月28日 目、耳、肌で湖岸の水質を知る
- 3月21日 ワカサギが増えた原因を考える

(2) 夏休み自然体験教室開催

夏休み期間中に霞ヶ浦湖岸で魚とりや水質検査等の観察会を実施した。

開催日：7月25日、8月1, 8, 15, 22, 29日

(3) 霞ヶ浦定期連続増座

第1期第1～5回に続き、毎月1回（第6～17回）の頻度で講座を開催した。

- 4月19日 アジアからみた世界の環境教育 原田 泰 (10)
- 5月17日 霞ヶ浦ナマズ雑話 外岡 健夫 (13)
- 6月21日 鹿行地区の水辺の観光今昔 高埜 栄治 (16)
- 7月19日 大人と子どもの知恵比べ
—霞ヶ浦湖岸模型づくり裏話— 神林 實 (16)
- 8月23日 大日塚古墳の石材はどう運ばれてきたか 海老沢 幸雄 (21)
- 9月20日 霞ヶ浦の魚社会の歴史
—魚類相の遷移とその原因— 中村 誠 (13)
- 10月18日 魚たちの霞ヶ浦水質史 岩崎 順 (13)
- 11月15日 霞ヶ浦水資源開発史3
—銚田地区開発と山口武秀— 木村 陽一 (16)
- 12月20日 霞ヶ浦報道をめぐって 岩波 嶺雄 (13)
- 1月17日 霞浦がつなぐ夢 市川 紀行 (13)
- 2月28日 霞ヶ浦水質浄化大作戦 浜田 篤信 (20)
- 3月21日 写真集「よみがえれ霞ヶ浦」の背景 小池 三郎 (14)

(4) 環境教育実践事業

12月19日 第3回いばらき水環境ネットワーク検討会を開催

一年も動向を検討し、組織構築や活動の内容について議論をおこなった。

(参加団体5)

2 調査研究

(1) 自然の調査研究

① 総合毒性の河川生態におよぼす影響の検討

河川の総合毒性（AOD）と底生動物分布密度との関係について研究を行い環境基準値の妥当性を検討した。

② ヤマトシジミ資源変動機構の解明

利根川水系におけるシジミ漁獲量と河川工事の相関関係を検討しシジミ資源の変動機構を明らかにした。

③ ワカサギ資源変動研究

過去5年間の魚類調査の結果からワカサギ資源の動向を解析し、開発事業の環境への影響が水質、基礎生産そしてワカサギ資源に影響を及ぼしていると判断した。成果の一部を海夫通信6号に掲載した。

④ 霞ヶ浦魚類調査

霞ヶ浦玉造高須地先で張網の漁獲物の種組成を12回にわたって調査した。

(2) 社会の調査研究

海夫社会の歴史解明研究

海夫が築いた津社会の発生について文献を整理するなどして霞ヶ浦社会史研究を開始した。成果の一部を会報5、6で紹介した。

3 Kフェスタ開催

2000年から2004年に開催していたイベント「霞ヶ浦水産フェスタ」復活の第一歩としてプレ・フェスタ「Kフェスタ」を開催した。約500名の参加があった。

- (1) 水質浄化アイデア・技術展（2月11日～2月28日）
- (2) 小池三郎「よみがえれ霞ヶ浦写真展」（2月11日～2月28日）
- (3) 霞ヶ浦夕景写真展（2月11日～2月28日）
- (4) 海夫もちつき大会、劇・コンサート、魚料理試食（2月27日）
- (5) 生き物アカデミー「目と耳と肌で水辺を知る」（2月28日）
- (6) 講演「霞ヶ浦水質浄化大作戦」（2月28日）
- (7) 夕景展望を実施した（2月27・28日）
- (8)

4 会報の発行

海夫通信3～6号を発行した。

海夫通信3 「飢えと米」、「絵画コントロール受賞作品」他、2009.5.15

海夫通信4 「とうする霞ヶ浦導水事業」、「生き物アカデミーの調査結果から」他2009.11.30

海夫通信5 「ワカサギ釣りで賑わった湖岸」、「海夫たちの霞ヶ浦1」、「コイヘルペスってなんだったの」他2010.2.15

海夫通信6 「霞ヶ浦生き物アカデミーにご参加ください」、「ワカサギ異変を追う」、「海夫たちの霞ヶ浦2」、「定期連続講座 霞ヶ浦浄化大作戦要旨」他2010.4.1

5 理事会・総会

設立総会平成21年5月31日15:00~16:00

開催場所：水の科学館多目的ホール 出席者数13名、表決委任8名 事業報告・会計報告、事業計画および予算について質疑・承認

理事会および協議会

第1回	4月19日16:00~17:00	霞ヶ浦講座、総会他
第2回	5月17日14:00~16:10	総会、地方税、財源
第3回	5月31日17:00~18:30	助成金応募、事業実施に向けて
協議会	6月21日17:00~19:00	執行体制、会報、環境教育
協議会	7月19日16:30~18:30	助成金応募、会報発行について
協議会	8月16日17:00~18:30	水産フェスタ、
第4回	9月20日16:00~17:30	講座・生き物アカデミー計画、会報 第2期執行体制、霞ヶ浦浄化対策
第5回	10月18日16:00~17:00	市民ネットワーク、助成金応募
第6回	11月15日16:00~17:30	講座の進め方、次期執行体制
第7回	12月19日16:00~17:30	水産フェスタ、会報、次年度体制
第8回	1月18日13:00~16:30	総会イベント、総会、会報発行
第9回	2月15日18:00~22:00	総会日程・内容について、活動・研究発表
第10回	3月20日13:00~16:00	総会、Kフェスタ総括、次期執行体制

平成21年度決算書

収入の部

費 目	予算額(円)	決算額(円)	増 減
前年度繰越金	19,866	7,474	△ 12,392
入会金・会費	500,000	87,000	△ 413,000
事業収入	100,000	23,100	△ 76,900
寄付金	500,000	60,000	△ 440,000
助成金	300,000	350,000	50,000
その他事業からの繰入	200,000	0	△ 200,000
雑収	1,000	13	△ 987
合計	1,620,866	527,587	△ 1,093,279

支出の部

費 目	予算額(円)	決算額(円)	増 減
事業費			
会議費		0	
報償費	1,150,000	86,250	△ 953,178
消耗品費		101,080	
印刷費		9,492	
管理費			
旅費		0	
事務費	700,000	49,838	△ 546,382
通信運搬費		58,780	
会費等		45,000	
	1,850,000	350,440	△ 1,499,560

繰越金

資産の部	金額(円)	負債の部	金額(円)
流動資産	221,713	流動負債	111,470
現金・預金	187,713	借入金	0
売掛金	34,000	未払金	111,470
資産の部計	221,713	繰越金	110,243

以上、報告します。

平成21年5月 日
非営利活動法人霞ヶ浦アカデミ

理事長 荒井 一美

平成21年度監査報告

平成19度における会計書類、帳簿、証拠書類および現金、預金を監査した結果、適正に処理されていたことを認めます。

平成22年 5月 日

監事 岩波 嶺雄

監事 宮内 徳二

平成22年度事業計画(案)

基本方針

最近数年の調査で、ワカサギ急増し、テナガエビ急減の傾向が明確になりました。湖水水質は、2000年頃を境に糸状藍藻類から珪藻類への遷移が起こり、CODも軽微な低減がみられています。このように最近10年間に霞ヶ浦の生態系に大きな変化が起こっていますが、その原因は明らかになっていません。その原因を知ることは、霞ヶ浦に依存して生きる私たちにとって、生活設計の根拠を知ることとこととあり、豊かさの必要条件の一つです。漁業者にとっては、ワカサギとゴロ・エビ類の両者が適度にとれることが望ましい状態といえますが、そうした生物群集の管理を実現するためにも、上記変化の原因究明がどうしても必要です。

こうした観点にたって、「自然の調査研究」の基本方針として最近の霞ヶ浦生態系変化の原因究明をとりあげます。

社会の調査研究としては、昨年会報で連載を始めた「海夫たちの霞ヶ浦」の完結をめざして中世以降の霞ヶ浦を対象に調査研究をすすめます。

また、最近大きな動きがみられる霞ヶ浦をめぐる社会情勢についても情報を収集し、上記の調査研究結果と併せて情報を会報やホームページ等で公開します。また、問題解決型環境教育理論を基本に、地域社会の運営を担う人材を育成するために環境教育講座等を開催します。

理事会等の運営

会員、団体との連携を重視し、開かれた運営をめざします。理事会等の会議は、オープンとし自由参加とします。調査研究等の各プロジェクト活動は自由参加とし公募して行います。

特定非営利活動に係る事業

- 1 生き物アカデミー講座開催 年12回実施
霞ヶ浦における観察会を中心に実施します。魚類調査、環境調査を柱に観察と同時に大きく変わりつつある霞ヶ浦生態系の変動に焦点を当てます。
- 2 環境教育指導者養成講座開催 年2回開催
霞ヶ浦で発生する環境問題の解決に資する参加体験型環境教育講座を開催します。
- 3 霞ヶ浦定期連続講演会 年12回開催
過去18回にわたって毎月一回開催してきた講座を、霞ヶ浦の環境、生物、歴史、開発等に関係するテーマについて継続実施する。
- 4 夏休み自然体験教室開催
夏休み期間中に公募した小中学生を対象に霞ヶ浦の生物や水質について観察会を実施する。夏休み期間中5回程度実施する。
- 5 Kフェスタ開催
霞ヶ浦に関する講演会、シンポジウム、魚食普及や各種イベントを開催する。
- 6 調査研究事業
地域に根差した身近なテーマをとりあげ参加体験型で調査研究を実施する。メンバーは公募する。
 - (1) 社会の調査研究
霞ヶ浦における津社会興亡等を中心に、霞ヶ浦流域社会の成り立ち、構造変化について調査を実施する。
 - (2) 自然の調査研究
大きく変わりつつある霞ヶ浦生態系変動について情報収集を行うと同時に、変動原因を解明します。
 - (3) 定例調査
霞ヶ浦魚類調査および水質調査を継続して行います。
- 7 広報事業 会報の発行・ホームページによる情報公開を行います。

その他の事業

調査研究の受託 水質や生物調査、AOD 調査等について受注します。

平成22年度予算(案)

特定利活動に係る事業予算案

費 目	予算額(円)	決算額(円)	増 減
前年度繰越金	110,243	7,474	102,769
入会金・会費	150,000	87,000	63,000
事業収入	100,000	23,100	76,900
寄付金	150,000	60,000	90,000
助成金	500,000	350,000	150,000
その他事業からの繰入	50,000	0	50,000
雑収	1,000	13	987
合計	1,061,243	527,587	533,656
支出の部			
費 目	予算額(円)	決算額(円)	増 減
会議費	100,000	0	100,000
報償費	150,000	86,250	63,750
消耗品費	200,000	101,080	98,920
印刷費	200,000	9,492	190,508
旅費	100,000	0	100,000
事務費	100,000	49,838	50,162
通信運搬費	100,000	58,780	41,220
会費等	50,000	45,000	5,000
予備費	61,243	0	61,243
合計	1,061,243	350,440	710,803

その他の事業に係る事業予算案

収入の部

費 目	前年度決算額	予算額	増 減
事業収入	0	500,000	500,000
合計	0	500,000	500,000

支出の部

費 目	前年度決算額	予算額	増 減
事業費	0	400,000	400,000

非営利活動事業繰入	0	50,000	50,000
次年度繰越金	0	50,000	50,000
合 計	0	500,000	500,000

役員改選

平成22～23年度役員(案)

職 名	第1期 (平成19～21年)	第2期 (平成22～23年)
理事長	荒井 一美	荒井 一美
副理事長	木村 陽一	木村 陽一
理 事	尾崎 遼平	尾崎 遼平
理 事	菊地 章雄	菊地 章雄
理 事	瀬川 正明	瀬川 正明
理 事	野口 淳夫	野口 淳夫
理 事	浜田 篤信	浜田 篤信
理 事		野原 小右二
理 事		宮本 嘉博
理 事		大久保 祐司
理 事	原田 泰	
監 事		宮内 徳二
監 事		岩波 嶺雄
顧 問		原田 泰